

## 平成 26 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

「自己と向き合い、自己を表現する言葉を獲得し、自らの将来を描き、目標に向けてたくましく生き抜く力を身につける教育」を展開する。

- 健全な日常生活習慣を確立し、自己を理解し大切にして、未来への展望のもとに今の自己を開発する意欲を持ち、社会人としての必要な教養を身に付け、夢を描き続け志を高く持つ生徒を育成する。
- 集団の中で一人ひとりが他者との繋がりにおいて育ち合い、社会との繋がりの中にある自己の価値を自覚し、互いの違いを尊重し合って、ともに発展する関係を築きあげる生徒を育成する。
- 地域に根ざした普通科高校としての使命を自覚し、地元地域に育まれた生徒たちを、地元地域の発展に貢献できる人材として育て輩出してゆく学校として、教職員の協働によってその存在感を確立する。

## 2 中期的目標

- 学習意欲を育て、授業改善を進め、生徒の「生き抜く力」を育むキャリア教育を確立する。
  - 入学から卒業まで3年間の見通しを持った指導計画の策定と深化  
進路指導部を中心に、各分掌・各教科での指導も検討し、全校一体となった3年間の指導計画を策定し、その効果を上げるためにさらに充実させる。その際、「実践的キャリア教育・職業教育」支援事業によるキャリア支援アドバイザーや就職支援コーディネーターを活用して、生徒が苦手を克服して自信を持って活動できるようになる視点をもって、出口指導や単なる職業理解指導、就業指導にならないような、「つなぐ・つながる」がキーワードの「生き抜く力」の指導を検討する。就職内定率100%を維持するとともに、進学保障も併せ、進路未定率をH26年度以降8%以内を維持させる。
  - 新学習指導要領の趣旨をふまえた教育課程の整備  
本校の生徒にとって何が必要かを考察し、普通科高校として幅広い基礎的・基本的学力と教養の育成を図る。その観点から、たくましく「生き抜く力」を育成し、自ら進路を開拓する力を獲得することに結びつく学習指導を検討するとともに、教育課程を整備し、生徒の変化を指標とした授業改善を進め、その成果としての生徒の進路実現を図る。
  - 生活規律の確立  
学力の向上と生活規律の確立はともに補完しあうものである。日常の振る舞いや服装、授業態度、時間管理等、生徒が倫理観を持って自己管理をできるような指導を推進する。その場合、単に目に見える成果ばかりを追い求めるのではなく、生徒の内面に寄り添った指導に心がける。授業アンケートや学校教育自己診断によって取り組みの向上を検証していく。
- 生徒が元気になる学校づくりをすすめる。
  - 生徒の居場所のあるHRづくり  
学校が生徒にとって心のよりどころとなるよう、その基盤であるHR作りの工夫を深め、活発なHR活動により生徒の積極性を引き出す。担任が生徒と向き合う時間を確保できるよう、校務の整理と運営の効率化をさらに進める。生徒の抱える様々な課題に対応できるよう、教員の生徒理解の力量を高めるとともに、家庭との連携を深める。
  - 教育相談体制の整備  
生徒が誰にでも相談できる環境整備を進めるため、教育相談体制を充実していく。生き生きサポート委員会を中心とした活動により、高校生活支援カードも活用し、幅広く生徒の学校生活を支援していく。また、教員研修等を通して教員の力量向上を図る。
  - 一人ひとりの課題に寄り添った指導の確立  
様々な課題を抱えた生徒のそれぞれの状況に応じて対応できるよう、外部の専門機関とも連携した指導体制を整備する。  
以上は、授業アンケートや学校教育自己診断によって取り組みの向上を検証していく。
- 人材育成と円滑な校務運営を図る。
  - ミドルリーダーの育成と経験年数の少ない教員のサポート  
ICT環境の整備によって校務の効率化が進み、協働体制がより求められるようになった。今後数年以内に見込まれるベテラン層の大量退職に備え、継続した校務運営ができるよう意識の共有化を図るために、教員研修の機会を確保して、全体の力量の向上と若手教員やミドルリーダーの育成を学校の活性化に結び付ける。
  - 情報管理体制の一元化を図る。  
住所や成績等の生徒の個人情報を一元管理することにより、利用の効率化と管理体制の強化をより進める。
- 保護者及び地域の小・中学校、子どもの健全育成に係る諸機関との連携を深め、地域ぐるみの安全安心な学校づくりを進める。そのため、学校見学会やHPを活用して広報活動を活発にする。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 26 年 11 月実施分]	学校協議会からの意見
<p><b>【基礎学力の充実】</b> 「自分の意見をまとめたり発表する時間がある」が 59%と、昨年より 10% 向上した。授業改善が進んでいる。 「1 週間に 1 時間以上読書をしている」が 29%であり、学力の土台となる読書をしっかり行う指導・環境の整備が求められる。</p> <p><b>【キャリア教育】</b> 「将来の進路や生き方について考える機会がある」が 78%あり、キャリア教育の充実を更に進めたい。</p> <p><b>【社会性育成】</b></p>	<p>第 1 回(5/21)</p> <p>①H26 学校経営計画 ・部活動の活性化を図ることが重要である。</p> <p>②キャリア教育の現状と課題 ・現在のキャリア教育は一応の完成形である。今後は進路指導以外の授業や行事でキャリア教育を考える時期に来ている。</p> <p>第 2 回(10/22)</p> <p>①授業見学 ・NET の入った英語授業は、生徒が積極的に発言し、活発な授業であった。</p>

<p>保護者アンケートで「子どもは学校へ行くのを楽しみにしている」が 82%あり、学校生活の充実への評価を得ているが、「部活動に積極的に取り組んでいる」が 47%と低く、部活動の活性化を通じての社会性の育成を図る必要がある。</p>	<p>②新入生アンケート結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動の低迷アルバイトの関係が見て取れる。アルバイトに対する指導が課題である。</li> <li>・地域の目から見ても、近年の生徒指導の充実が感じられる。</li> </ul> <p>第3回(1/21)</p> <p>①学校教育自己診断結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合の時間の取り組みはどうか。教育方針に合わせた内容充実を。</li> <li>・校則に対する生徒の意識はどうか。規制されなくても自己管理できる方向に育てられないか。</li> </ul>
--	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
<p>1. 生徒の生き抜く力を育むキャリア教育を確立する。</p>	<p>(1) 入学から卒業まで3年間の見通しを持った指導計画の策定と深化</p> <p>(2) 新学習指導要領の趣旨をふまえた教育課程の整備</p> <p>(3) 生活規律の確立</p>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「実践的キャリア教育・職業教育」支援事業によるキャリア支援アドバイザーや就職支援コーディネーターを活用して、職業指導、就業指導に限らないよう、語ることの指導、他者を理解することの指導、社会性を育成する指導等を通じて生き抜く力を育成する指導を検討する。</li> <li>・総合的な学習の時間と LHR の活用を効果的にして、生徒の参画感と達成感を上げる。</li> </ul> <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「西寝屋川版キャリア教育」の視点から、幅広い基礎的・基本的学力と教養の育成を考慮した各教科・科目の指導を充実させる。</li> <li>・電子黒板や ICT 機器の活用を高め、ICT 活用授業を促進することで、授業方法の改革を図り、生徒の学びの意欲を引き出し、学力向上をめざす。</li> </ul> <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・挨拶指導をより進める。</li> <li>・服装、遅刻等の指導の徹底。</li> <li>・学校HPを始めとした広報を活用し、保護者に対し、授業参観や学校行事など教育活動への参加を呼びかける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校斡旋就職希望者の内定率 100%を維持し、進路未定者率 5%以下を目標とする。</li> <li>・総合的な学習の時間と LHR の時間の効率的な活用によってキャリア教育をより効果的に進め、自己診断の「進路情報」や「HR 活動」の評価で検証する。</li> <li>・ICT 活用等の授業方法改善を進め、全体の基礎学力を引き上げる。</li> <li>・教科指導の工夫により図書館の活用度を上げるとともに、「週 1 時間以上の読書」を 40%以上にする。</li> <li>・H25 年に引き続き、懲戒件数 30 件以内を達成できるよう、規範意識の向上指導を続ける。</li> <li>・遅刻回数は、H23:9000、H24:6000、H25:5200 と漸減しており、H26 年はのべ 5000 人以内を目標とする</li> </ul>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校斡旋就職希望者 80 名全員の内定を達成した。進学希望者は、京都産業大、龍谷大学等の中堅大学を始め、看護系専門学校等希望進路を多数実現している。(◎)</li> <li>・3 年間を通じてのキャリア教育を計画的に進めた。1 学年ではカタリ場、2、3 学年の進路希望別ゼミを実施、教育自己診断では全体の 77%が「学校は進路についての情報を知らせてくれる」と評価している。(◎)</li> </ul> <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT 活用を始めとする授業改善の取組を進めた。国語・理科・社会・英語等の授業で、ICT 機器の活用を積極的に実施し、分かりやすい授業、興味関心を高める取り組みを進め、1 年生 82%が「授業でコンピュータやプロジェクトなどを活用している」と評価している。(○)</li> <li>・図書館の利用促進、読書の推奨を、授業その他の機会に進めているが、全体に「1 週間に 1 時間以上は読書している」生徒は 30%に止まっている。基礎学力向上の基盤としても、読書促進の強化が必要である。(△)</li> </ul> <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・きめ細かい生徒の指導体制が整っている。教職員の 93%が「生徒の問題行動が起こった時組織的に対応できる体制が整っている」と評価している。懲戒件数は 30 件を下回っている。(○)</li> <li>・登校指導、朝点呼の実施を進めている。遅刻回数は 5000 人を上回っている。遅刻削減の取り組みが必要である。(△)</li> </ul>
<p>2. 生徒が元気になる学校づくりをすすめる。</p>	<p>(1) 生徒の居場所のあるHRづくりの環境整備</p> <p>(2) 教育相談体制の整備</p> <p>(3) 一人ひとりの課題に寄り添った指導の確立</p>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・統合 I C T や校務処理システムの活用や会議の整理を進めて事務の効率化を図り、担任が生徒と関わる時間を確保する。</li> <li>・部活動加入率を高め、また、地域での部活動交流を進めるなど、生徒が意欲的に取り組み、活躍できる場を広げる。</li> <li>・生徒理解の職員校内研修を継続する。</li> </ul> <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生き生きサポート委員会を中心とした教育相談体制の充実を図る。</li> <li>・担任会との連携の強化</li> <li>・教育相談の校内研修の実施</li> </ul> <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個別の支援を必要とする生徒の把握とフォローを充実させ、進級や卒業後の進路の支援をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・協議は運営委員会で行うなど、職員会議の時間短縮(1 時間以内)を図る。諸会議の時間と回数の削減を図る。</li> <li>・部活動体験等を充実させ、部活動加入率を 10%以上向上させる。</li> <li>・自己診断での「相談に親身になってくれる先生が多い」(H25 年 60%→H26 年は 65%超をめざす)等、教員に対する評価の向上</li> <li>・自己診断による進路に関する肯定的評価を 80%以上とする。</li> </ul>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職員会議規定、運営委員会規定の整備を行い、職員会議の時間短縮を図った。キャリア教育に係る指導等が放課後の時間を占める場合が多く、担任が生徒と関わる時間の確保を阻害している。総合的な学習の時間の改善を行い、キャリア教育の実施形態を工夫する必要がある。(○)</li> <li>・部活動加入促進期間を複数回設定するなど、部活動活性化を図ったが、加入率は 40%台に止まっている。放課後アルバイトが阻害要因となっており、指導方針の徹底が必要である。(△)</li> </ul> <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育自己診断の評価で、「相談に親身になって応じてくれる」は 61%、「いじめなど困っていることに真剣に対応してくれる」は 62%であり、昨年度と同水準であった。「気軽に相談できる」が 56%であり、教育相談体制の一層の改善充実が求められる。(△)</li> </ul> <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「将来の進路や生き方について考える機会がある」は、全体で 78%、3 年生で 83%であり、一人ひとりに丁寧な指導を行っている。(○)</li> </ul>

## 府立西寝屋川高等学校

<p>3. 人材育成と円滑な校務運営を図る。</p>	<p>(1) ミドルリーダーの育成と経験年数の少ない教員のサポート</p> <p>(2) 情報管理体制の一元化</p>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運営委員会や職員会議での議論を実効性のあるものとすることや、教員同士の意見交流の場を作ってOJTを強化する。</li> <li>・ワークショップ等の実践的な研修を継続する。</li> <li>・業務を整理して研修の時間を確保する。</li> </ul> <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・統合ICTと校務処理システムにより情報管理の一元化が実現したので、名簿や調査書等の作成や管理を機能化、効率化するとともに、個人情報の管理をより厳密にする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若手教員を中心とした企画・実施組織の創設。</li> <li>・機動性の向上</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報管理の一元化を完成させ業務の効率化して作業量の削減を行う。</li> </ul>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業改善に意欲を有する若手教員に呼びかけ、授業改革に取り組むチーム作りを進めている。来年度以降のICT活用環境整備をめざし、整備計画の策定に着手している。(○)</li> <li>・アクティブラーニング等の授業改善手法の研究参加を促進した。研修成果導入を試行する動きが始まった。(○)</li> </ul> <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校務処理システムの統合が完了した。生徒情報の管理・活用が厳格に行える体制が実現した。(○)</li> </ul>
----------------------------	---	---	---	--